

2025年9月期 決算短信〔IFRS〕(連結)

2025年11月14日
東

上場会社名 BBDイニシアティブ株式会社 上場取引所
コード番号 5259 URL <https://bbdi.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 グループCEO (氏名) 稲葉雄一
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 グループCFO (氏名) 佐藤幸恵 (TEL) 03-5405-8120
定時株主総会開催予定日 2025年12月24日 配当支払開始予定日 —
有価証券報告書提出予定日 2025年12月23日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (オンライン開催)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年9月期の連結業績(2024年10月1日~2025年9月30日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期 利益	当期包括利益合 計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	百万円	%
2025年9月期	4,399	6.6	△351	—	△370	—	△377	—	△377	△390	—
2024年9月期	4,127	15.6	285	—	266	—	164	449.1	164	164	404.3

	基本的1株当たり 当期利益	希薄化後 1株当たり当期利益	親会社所有者帰属持分 当期利益率	資産合計 税引前利益率	売上収益 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2025年9月期	△63.60	—	△24.8	△9.1	△8.0
2024年9月期	31.22	—	13.9	6.8	6.9

(参考) 持分法による投資損益 2025年9月期 —百万円 2024年9月期 —百万円

(注1) 2024年9月期の営業利益及び税引前利益の対前期増減率は、1,000%を超えるため「—」と記載しております。

(注2) 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率	1株当たり親会社 所有者帰属持分
	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
2025年9月期	3,989	1,758	1,758	44.1	287.29
2024年9月期	4,133	1,280	1,280	31.0	242.26

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2025年9月期	677	△234	176	1,361
2024年9月期	555	△530	50	743

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	親会社所有者 帰属持分配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2024年9月期	—	0.00	—	7.00	7.00	36	22.4	3.1
2025年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2026年9月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 2026年9月期の連結業績予想(2025年10月1日~2026年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		調整後営業利益	
	百万円	%	百万円	%
通 期	4,803	9.2	486	—

(注1) 調整後営業利益=営業利益+株式報酬費用+減価償却費+その他一時費用

※ 注記事項

(1) 期中における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名)―、除外 一社(社名)―

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.12「3. 連結財務諸表及び主な注記(5) 連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年9月期	6,120,221株	2024年9月期	5,276,221株
② 期末自己株式数	2025年9月期	296株	2024年9月期	233株
③ 期中平均株式数	2025年9月期	5,935,288株	2024年9月期	5,276,001株

(参考) 個別業績の概要

1. 2025年9月期の個別業績(2024年10月1日~2025年9月30日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期	322	1.3	△109	—	△112	—	△382	—
2024年9月期	318	66.6	4	△91.2	△0	—	△66	—

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2025年9月期	△64.42	—
2024年9月期	△12.56	—

(注1) 各段階利益に関する前期実績との差異は、株主優待に係る費用の増加によるものであります。

(注2) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年9月期	2,221	1,610	72.5	263.08
2024年9月期	2,119	1,146	54.0	216.89

(参考) 自己資本 2025年9月期 1,610百万円 2024年9月期 1,144百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 経営成績等の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

(決算補足説明資料及び決算説明会の入手方法)

決算補足説明資料はTDnet及び当社ウェブサイトにて同日開示しています。また、2025年11月14日(金)にオンライン決算説明会を開催する予定です。当日説明する決算説明会資料は、当社ウェブサイトに掲載します。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結財政状態計算書	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(連結損益計算書)	8
(連結包括利益計算書)	9
(3) 連結持分変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(会計方針の変更)	12
(会計上の見積りの変更)	12
(セグメント情報等)	13
(1株当たり情報)	15
(重要な後発事象)	15

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

当社グループは「ありがとうをX-Tech（クロステック）する」を経営理念に、「DigitalInclusion（デジタルインクルージョン）～テクノロジーを通じて、世界中の人々が参加し、平等に利益を受ける機会を提供することで社会に希望を与える～」をビジョンに掲げ、企業の人手不足をデジタルトランスフォーメーション（D X）で補うべく、営業活動の自動化を中心とした業務の自動化・自律化をSaaS・AIで支援しております。

当社グループを取り巻く環境は、中堅・中小企業においてもテレワークが定着し、デジタルトランスフォーメーション（D X）への機運の高まりによる営業D X化が加速してまいりました。さらに、高度な対話型AIである「Chat GPT」をはじめとする大規模言語モデルによる技術革新が進展し、AIを活用することによる労働集約的業務・単純作業の自動化への需要も拡大しております。社会的課題である生産労働人口の減少に伴うI T人材不足への懸念とI T人材の採用困難性が増加している状況において、当社グループの提供サービスへの需要は、より一層高まっているものと認識しております。

このような状況下において、当社はD Xによる企業活動支援を積極的に推進するため、中堅・中小企業のD Xを支援する経営資源に絞り、成長性又は収益性が低い不採算事業・サービスからの撤退等、事業の選択と集中に取り組んでまいりました。

また、2025年8月より株式会社ヘッドウォータースとの資本業務提携を皮切りに、中堅・中小企業を支援する「D X（デジタルトランスフォーメーション）」から「A X（A Iトランスフォーメーション）」に大きく舵を切り、ソフトウェア提供型サービスからAI提供型サービスへ、従来の「機能提供モデル」から「顧客が蓄積する利用データをAI学習資産として活かすモデル」へ大きく事業モデルを変革することとしました。

具体的には企業の売上・生産性向上への貢献を可能にする統合型S F A／C R Mクラウドサービス「KnowledgeSuite(ナレッジスイート)」を中心とした中堅・中小企業向けS a a Sシェア拡大、サブスクリプションビジネス拡大に加え、生成AIネイティブアプリに進化した次世代型SFA/CRM「Knowledge Suite+（ナレッジスイートプラス）」を順次サービスリリースいたしました。

また、B P O事業セグメントは、I T人材の確保と教育を強化し、高単価かつ高採算のプロジェクト案件の獲得に成功いたしました。

以上の結果、当連結会計年度の経営成績は、売上収益は4,399,466千円（前期比6.6%増）、営業損失は351,803千円（前連結会計年度は営業利益285,497千円）、税引前損失は370,955千円（前連結会計年度は税引前利益266,583千円）、親会社の所有者に帰属する当期損失は377,478千円（前連結会計年度は当期利益164,727千円）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(D Xセグメント)

当セグメントは、B t o B向け営業支援S a a Sビジネスアプリケーション「Knowledge Suite(ナレッジスイート)」を中心とした自社開発S a a Sプロダクトの提供及び顧客企業をカスタマーサクセスへ導く導入支援コンサルティングサービスである「セールステック事業」、B t o B向けマーケティング支援サービスを提供する「マーテック事業」、及び俳優等のタレント肖像をサブスクリプションで提供する広告体験サービスの「タレントテック事業」で構成されています。

当連結会計年度においては、販売パートナーの新規開拓活動及び深耕活動による拡販支援、効率の高い展示会への積極的な参加等によるマーケティング・プロモーション活動に注力しつつ、新たに立ち上げたインサイドセールス体制及び全国に拡大している販売パートナーの強化による、リード（見込み顧客）獲得の拡大を図るなど販売チャネル強化を進めてまいりました。その他「Knowledge Suite」と高い相乗効果を発揮するBtoB営業リスト作成サービス「Papattoクラウド」等、グループ会社及び提携先パートナーによるR P Aサービス等の同時提案や

クロスセルといった取り組みを推進しました。

当第4四半期より生成AIネイティブアプリ「Knowledge Suite+（ナレッジスイートプラス）」を順次サービスリリースし、既存顧客へのクロスセルによる積上増収を見込んでおりましたが、既存顧客への販売体制構築の遅れにより販売開始時期がずれ込んだことにより、当期中の売上増加に寄与できず、「Knowledge Suite+（ナレッジスイートプラス）」の開発コストを吸収できませんでした。

また、当社グループの事業変革に向けて、顧客資産となる利用データの蓄積が難しいサービス・事業、及び「AI as a Service」に関連しないSaaSプロダクトまたはサービスからの撤退を行うため、該当にあたる事業の一時的な減損損失を計上いたしました。

SaaS売上収益は前年同期比103.2%増、グループサブスクARR（※1）は1,662百万円となりました。

これらの結果、売上収益は2,149,326千円（前期比0.9%増）、セグメント損失は110,706千円（前連結会計年度はセグメント利益526,420千円）となりました。

グループサブスクARPA推移

	2024年9月期末	2025年9月期末
ARPA（円）	471,350	509,166

※1 当期末時点のグループサブスク（OEM除く）契約件数。

※2 ARPA：Average Revenue Per Accountの略。1契約企業あたりの平均年次経常収益。

※3 グループサブスクARR：OEMを除く当社グループが提供する全てのSaaS・サブスクリプションサービスにおける各四半期末時点のMRRの12倍で算出。

ARRはAnnual Recurring Revenueの略。年次経常収益。

MRRはMonthly Recurring Revenueの略。月間経常収益。

（BPOセグメント）

当セグメントは、顧客企業へIT人材によるシステム開発サービス（SES/システムエンジニアリングサービス）を提供する「ディープテック事業」を中心に展開しております。

当連結会計年度においては、引き続き高いIT人材需要を背景に積極的な営業活動を進め、IT人材不足による新規開発プロジェクト案件が増加し、SES売上収益は前期比15.5%増となりました。

これらの結果、売上収益は2,250,139千円（前期比12.7%増）、セグメント利益は372,166千円（前期比49.2%増）となりました。

(2) 当期の財政状態の概況

(資産)

当連結会計年度末の流動資産は2,020,870千円となり、前連結会計年度末に比べ616,621千円増加しました。これは主に、現金及び現金同等物の増加618,812千円、営業債権及びその他の債権の減少30,114千円、その他の金融資産の増加32,148千円によるものであります。

当連結会計年度末の非流動資産は1,968,258千円となり、前連結会計年度末に比べ760,733千円減少しました。これは主に、使用権資産の減少118,693千円、のれんの減少215,832千円、無形資産の減少493,315千円、その他の金融資産の減少43,976千円、繰延税金資産の増加115,876千円によるものであります。

これらの結果、当連結会計年度末の資産合計は3,989,128千円となり、前連結会計年度末に比べ144,112千円減少しました。

(負債)

当連結会計年度末の流動負債は1,647,291千円となり、前連結会計年度末に比べ269,913千円減少しました。これは主に、営業債務及びその他の債務の減少102,287千円、有利子負債の減少293,974千円、未払法人所得税の増加79,768千円、引当金の増加80,011千円によるものであります。

当連結会計年度末の非流動負債は583,620千円となり、前連結会計年度末に比べ352,054千円減少しました。これは主に、有利子負債の減少245,165千円、リース負債の減少84,607千円によるものであります。

これらの結果、当連結会計年度末の負債合計は2,230,911千円となり、前連結会計年度末に比べ621,968千円減少しました。

(資本)

当連結会計年度末の資本は1,758,216千円となり、前連結会計年度末に比べ477,856千円増加しました。これは主に、新株の発行による増加882,824千円、当期損失の計上377,478千円、剰余金の配当による減少36,931千円によるものであります。

これらの結果、親会社所有者帰属持分比率は前連結会計年度末に比べ13.1ポイント増加し、44.1%となりました。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ618,812千円増加し、1,361,891千円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は677,194千円（前連結会計年度は555,023千円の獲得）となりました。これは主に、継続事業からの税引前当期損失370,955千円、減損損失731,662千円、減価償却費及び償却費342,274千円、営業債務及びその他の債務の減少102,287千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は234,978千円（前連結会計年度は530,418千円の使用）となりました。これは主に、無形資産の取得による支出224,632千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は176,595千円（前連結会計年度は50,172千円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金減少額240,000千円、長期借入れによる収入330,000千円、長期借入金の返済及び社債の償還による支出629,759千円、リース負債の返済による支出129,471千円、株式の発行による収入882,824千円、配当金の支払額36,931千円によるものであります。

(4) 今後の見通し

当社グループの2026年9月期は、D X事業セグメントにおいて、生成AIネイティブアプリに進化した次世代型SFA/CRM「Knowledge Suite+（ナレッジスイートプラス）」が提供開始されたことを受け、既存顧客へのクロスセル拡販によるサブスクリプション積上による増収を見込んでおります。また、株式会社ヘッドウォータースとの業務提携を皮切りに、従来の「機能提供モデル」から「顧客が蓄積する利用データをAI学習資産として活かすモデル」となるべく、S a a SベンダーからA Iベンダーへ大きく事業モデルを切り替えます。

B P O事業セグメントは、株式会社ヘッドウォータースとの連携によるA I人材の確保と教育を強化し、更なる高単価かつ高採算のプロジェクト案件を獲得する見込みです。

以上から、2026年9月期においては、売上収益は4,803百万円（前期比9.2%増）、調整後営業利益（※）486百万円（前年同期増減額478百万円増、調整後営業利益率10.1%）を見込んでおります。

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後の様々な要因によって、実際の業績は予想数値と異なる結果となる可能性があります。業績予想の修正の必要性が生じた場合には、速やかに開示いたします。

※ 調整後営業利益＝営業利益＋株式報酬費用＋減価償却費＋その他一時費用

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上、経営管理及びガバナンスの強化を目的として、2020年9月期第1四半期連結会計期間よりI F R Sを適用しております。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結財政状態計算書

	(単位：千円)	
	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当連結会計年度 (2025年9月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	743,079	1,361,891
営業債権及びその他の債権	561,194	531,079
棚卸資産	1,775	49
未収法人所得税等	16,724	—
その他の金融資産	3,268	35,416
その他の流動資産	78,206	92,432
流動資産合計	1,404,248	2,020,870
非流動資産		
有形固定資産	45,148	40,356
使用権資産	317,848	199,155
のれん	843,893	628,060
無形資産	1,321,155	827,839
その他の金融資産	110,136	66,160
繰延税金資産	90,809	206,685
非流動資産合計	2,728,991	1,968,258
資産合計	4,133,240	3,989,128

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当連結会計年度 (2025年9月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	321,682	219,395
契約負債	91,881	81,662
有利子負債	1,159,132	865,158
リース負債	128,292	95,158
未払法人所得税等	24,226	103,994
引当金	—	80,011
その他の流動負債	191,990	201,911
流動負債合計	1,917,205	1,647,291
非流動負債		
有利子負債	711,290	466,125
リース負債	167,847	83,240
引当金	39,605	23,757
繰延税金負債	16,931	10,498
非流動負債合計	935,674	583,620
負債合計	2,852,880	2,230,911
資本		
資本金	734,016	1,176,526
資本剰余金	285,819	713,554
利益剰余金	258,225	△119,252
自己株式	△20	△86
その他の資本の構成要素	2,319	△12,524
親会社の所有者に帰属する 持分合計	1,280,360	1,758,216
資本合計	1,280,360	1,758,216
負債及び資本合計	4,133,240	3,989,128

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
売上収益	4,127,625	4,399,466
売上原価	2,424,619	2,729,023
売上総利益	1,703,006	1,670,442
販売費及び一般管理費	1,398,910	1,465,988
その他の収益	2,111	178,782
減損損失	—	731,662
その他の費用	20,709	3,377
営業利益 (△損失)	285,497	△351,803
金融収益	133	1,567
金融費用	19,047	20,718
税引前利益 (△損失)	266,583	△370,955
法人所得税費用	101,856	6,523
当期利益 (△損失)	164,727	△377,478
当期利益の帰属		
親会社の所有者	164,727	△377,478
当期利益 (△損失)	164,727	△377,478
1株当たり当期利益		
基本的1株当たり当期利益 (△損失) (円)	31.22	△63.60
希薄化後1株当たり当期利益 (円)	—	—

(連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
当期利益（△損失）	164,727	△377,478
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目：		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定 する資本性金融資産	△7	△12,649
その他の包括利益合計	△7	△12,649
当期包括利益合計	164,720	△390,128
当期包括利益合計額の帰属		
親会社の所有者	164,720	△390,128
当期包括利益合計	164,720	△390,128

(3) 連結持分変動計算書

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構成要素	合計	
2023年10月1日残高	734,016	263,661	93,498	—	132	1,091,309	1,091,309
当期利益又は当期損失(△)	—	—	164,727	—	—	164,727	164,727
その他の包括利益	—	—	—	—	△7	△7	△7
当期包括利益合計	—	—	164,727	—	△7	164,720	164,720
自己株式の取得	—	—	—	△20	—	△20	△20
新株予約権の発行	—	—	—	—	2,194	2,194	2,194
株式報酬取引	—	22,157	—	—	—	22,157	22,157
所有者との取引額等合計	—	22,157	—	△20	2,194	24,331	24,331
2024年9月30日残高	734,016	285,819	258,225	△20	2,319	1,280,360	1,280,360

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

(単位：千円)

	親会社の所有者に帰属する持分						資本 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	その他の 資本の構成要素	合計	
2024年10月1日残高	734,016	285,819	258,225	△20	2,319	1,280,360	1,280,360
当期利益又は当期損失(△)	—	—	△377,478	—	—	△377,478	△377,478
その他の包括利益	—	—	—	—	△12,649	△12,649	△12,649
当期包括利益合計	—	—	△377,478	—	△12,649	△390,128	△390,128
剰余金の配当	—	△36,931	—	—	—	△36,931	△36,931
新株の発行	442,509	442,509	—	—	△2,194	882,824	882,824
自己株式の取得	—	—	—	△65	—	△65	△65
株式報酬取引	—	22,157	—	—	—	22,157	22,157
所有者との取引額等合計	442,509	427,735	—	△65	△2,194	867,984	867,984
2025年9月30日残高	1,176,526	713,554	△119,252	△86	△12,524	1,758,216	1,758,216

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前利益 (△損失)	266,583	△370,955
減損損失	1,105	731,662
減価償却費及び償却費	311,721	342,274
金融収益	△133	△1,567
金融費用	19,047	20,718
助成金収入	△1,418	△175,816
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△501	1,726
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)	△81,918	30,184
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)	125,836	△102,287
契約負債の増減額 (△は減少)	7,138	△10,218
株主優待引当金の増減額 (△は減少)	—	64,000
その他	△5,687	16,213
小計	641,773	545,935
利息の受取額	133	1,567
利息の支払額	△18,887	△19,183
助成金の受取額	1,418	175,816
法人所得税の支払額	△69,415	△43,676
法人所得税の還付額	—	16,735
営業活動によるキャッシュ・フロー	555,023	677,194
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△5,125	△5,542
無形資産の取得による支出	△308,726	△224,632
投資有価証券の取得による支出	△10,770	—
子会社の取得による支出	△209,078	—
その他	3,282	△4,802
投資活動によるキャッシュ・フロー	△530,418	△234,978
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	69,960	△240,000
長期借入れによる収入	490,000	330,000
長期借入金の返済及び社債の償還による支出	△374,972	△629,759
リース負債の返済による支出	△136,989	△129,471
株式の発行による収入	—	882,824
配当金の支払額	—	△36,931
自己株式の取得による支出	△20	△65
新株予約権の発行による収入	2,194	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	50,172	176,595
現金及び現金同等物の増加額	74,777	618,812
現金及び現金同等物の期首残高	668,302	743,079
現金及び現金同等物の期末残高	743,079	1,361,891

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっている事業セグメントを基礎に決定しております。

当社グループは、経営組織の形態、製品・サービスの特性及び販売市場の類似性に基づき、複数の事業セグメントを集約した上で、「D Xセグメント」及び「B P Oセグメント」の2つを報告セグメントとしております。

「D Xセグメント」は、営業活動の可視化、営業活動の自動化を目指す法人向けマルチテナント型クラウドサービスとして開発した統合型営業・マーケティング支援S a a Sの開発・販売及び顧客企業のカスタマーサクセスへ導く導入支援サービスを提供することで、中堅・中小企業のD Xを支援する事業を展開しております。

「B P Oセグメント」は、主に企業のマーケティング課題・システム課題を解決支援するWE Bマーケティング支援、各種システムの受託開発・保守及び顧客企業へのシステムエンジニアリング（I T人材リソース）を提供するビジネスプロセスアウトソーシング事業を展開しております。

(2) 報告セグメントの収益及び業績に関する情報

前連結会計年度(自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)

(単位：千円)

	D Xセグメント	B P Oセグメント	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客からの売上収益	2,130,866	1,996,759	4,127,625	—	4,127,625
セグメント間の売上収益	1,140	34,778	35,918	△35,918	—
合計	2,132,006	2,031,537	4,163,543	△35,918	4,127,625
セグメント利益	526,420	249,412	775,833	△490,336	285,497
金融収益					133
金融費用					19,047
税引前利益					266,583
(その他の損益項目)					
減価償却費及び償却費	166,010	9,341	175,352	136,368	311,721
減損損失	1,105	—	1,105	—	1,105

(注) 1. セグメント間の取引は市場実勢価格に基づいております。

2. セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。

3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)

(単位:千円)

	DXセグメント	BPOセグメント	合計	調整額	連結財務諸表 計上額
売上収益					
外部顧客からの売上収益	2,149,326	2,250,139	4,399,466	—	4,399,466
セグメント間の売上収益	1,140	35,624	36,764	△36,764	—
合計	2,150,466	2,285,763	4,436,230	△36,764	4,399,466
セグメント利益(△損失)	△110,706	372,166	261,459	△613,262	△351,803
金融収益					1,567
金融費用					20,718
税引前利益(△損失)					△370,955
(その他の損益項目)					
減価償却費及び償却費	199,877	12,583	212,461	129,813	342,274
減損損失	717,069	—	717,069	14,593	731,662

- (注) 1. セグメント間の取引は市場実勢価格に基づいております。
2. セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用によるものであります。
3. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(3) 商品及びサービスに関する情報

商品及びサービスの区分が報告セグメントの区分と同一であるため、記載を省略しております。

(4) 地域別に関する情報

本邦の外部顧客への売上収益が連結損益計算書の売上収益の大部分を占めるため、記載を省略しております。

(5) 主要な顧客に関する情報

外部顧客への売上収益のうち、連結損益計算書の売上収益の10%以上を占める相手先がないため、記載しておりません。

(1株当たり情報)

基本的1株当たり当期利益及びその算定上の基礎は、次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2023年10月1日 至 2024年9月30日)	当連結会計年度 (自 2024年10月1日 至 2025年9月30日)
親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)(千円)	164,727	△377,478
基本的加重平均普通株式数(株)	5,276,001	5,935,288
基本的1株当たり当期利益(△損失)(円)	31.22	△63.60

(注) 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。